

2020年（令和二年）

12月11日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.tee.or.jp>

■ 概況

11/26～12/2のNYMEX・WTI先物市場は、44.55～45.53ドルの範囲で推移した。

12月3日は、OPECプラスの閣僚会議で、2021年からの減産を現行より50万BD緩和と720万BDとし毎月見直すこととなり、弱含む場面もあったが、米国の追加経済対策で共和・民主両党の歩み寄りが好感されたことから、続伸した。1月限の終値は前日比0.36ドル高の45.64ドル。

週末4日は、前日のOPECプラス会合で大型減産体制が維持され、むしろ減産緩和の速度が緩やかになったことが評価され、米国追加経済対策の早期成立への期待感と相まって、3日続伸した。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比5基増の246基と2週連続の増加となった。1月限の終値は前日比0.62ドル高の46.26ドル。

週明け7日は、米国における新型コロナの感染再拡大への懸念、香港民主派弾圧への制裁としての中国当局者の米国渡航制限強化による米中対立の激化を背景に、4営業日ぶりに反落した。1月限終値は前週末比0.50ドル安の45.76ドル。

8日は、英国でワクチン接種が始まるなど、新型コロナの感染収束へ明るい動きが見え、米国株価の上昇とともに、買われる局面もあったが、カリフォルニア州やニューヨーク州で行動制限の強化が発表されるなど、感染再拡大の懸念が一段と高まり、小幅続落した。また、11月のOPEC産油量が2521万b/dとリビアの増産を中心に6か月ぶりの高水準になったとの報道も値下がり要因となった。1月限の終値は前日比0.16ドル安の45.60ドル。

9日は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比1520万バレル増と大幅な積み増しに

なったことから、小幅に続落した。ただ、ワクチン開発や追加経済対策への期待感が下値を支えた。1月限の終値は前日比0.08ドル安の45.52ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は11月26日～12月2日の間46.50～48.50ドルの範囲で推移した。12月3日47.30ドル、4日47.10ドル、7日47.00ドル、8日47.00ドル、9日48.20ドルと推移した。

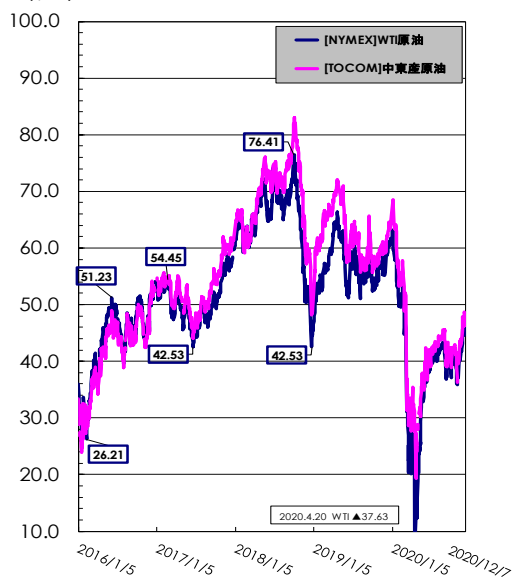
為替は11月26日～12月2日の間103.89～104.35円の範囲で推移した。12月3日104.49円、4日103.83円、7日104.08円、8日104.09円、9日104.16円で推移した。

財務省が12月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、11月中旬の原油輸入平均CIF価格は、27,694円/klで、前旬比595円安、ドル建て42.15ドルで前旬比0.70ドル安、為替レートは1ドル/104.47円。

そのような中で、12月7日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.8円の値上がり、軽油も同0.7円の値上がり、灯油は7円の値上がり(18%ペース)だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油も3週連続の値上がりだった。この週(12月第1週)の原油コストは値上がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社前週比0.5円の引き上げとなった。

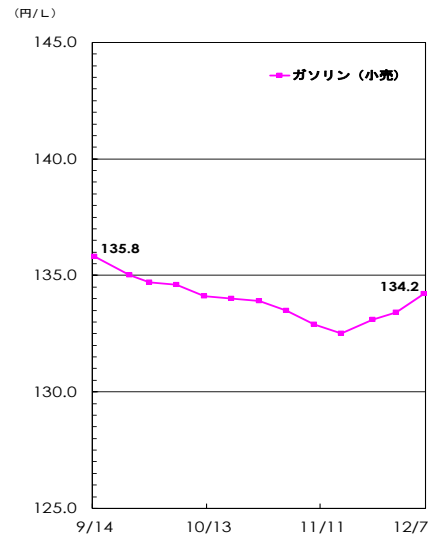
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/29 ~ 12/5	2,895 ▲55	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.2 ▲1.4	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	12/5	11,408 ▼-170	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	12/7	48.09 ▲1.36	▼ -14.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/7	45.76 ▲0.42	▼ -13.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月中旬	42.15 ▼-0.70	▼ -22.78
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	27,694 ▼-595	▼ -16,734
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	104.47 ▲0.49	▲ 4.31
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/7	105.08 ▼-0.19	▲ 4.52

(\$/b)



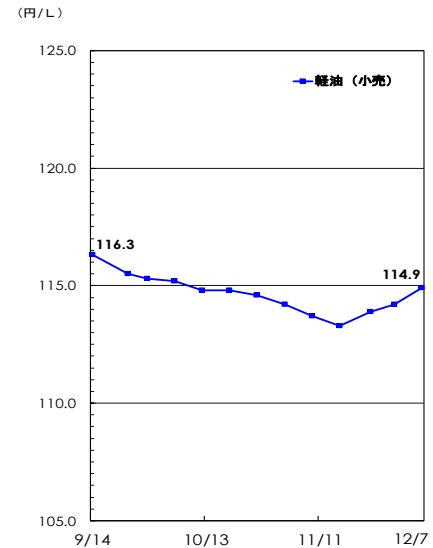
		(単位：千kl、円/%)			
ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/29 ~ 12/5	916	▼ -54	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	911	▲ 133	▲ -
	輸出	"	0	▼ -94	▼ -
	在庫	12/5	1,998	▲ 5	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/1 ~ 12/7	45.6	▲ 2.5	▼ -14.5
	先物 [期近物/終値]	12/1 ~ 12/7	42.5	▲ 0.5	▼ -13.6
	(TOCOM/中部)	12/7	45.0	▲ 1.0	▼ -14.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/7	134.2	▲ 0.8	▼ -13.4

※業転、先物価格は税抜き価格

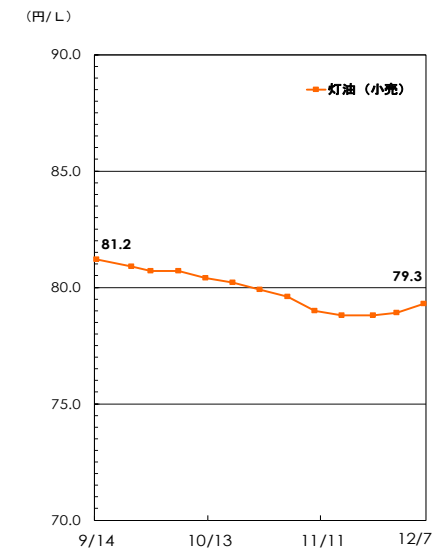


		(単位：千kl、円/%)			
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/29 ~ 12/5	649	▲ 43	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	648	▲ 97	▼ -
	輸出	"	26	▼ -2	▼ -
	在庫	12/5	1,598	▼ -24	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/1 ~ 12/7	48.1	▲ 2.2	▼ -15.0
	先物 [期近物/終値]	12/1 ~ 12/7	49.1	▲ 0.3	▼ -15.9
	(TOCOM/中部)	12/7	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/7	114.9	▲ 0.7	▼ -13.2

※業転、先物価格は税抜き価格



		(単位：千kl、円/%)			
灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/29 ~ 12/5	371	▲ 17	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	368	▲ 105	▼ -
	輸出	"	0	▼ -30	▼ -
	在庫	12/5	2,927	▲ 3	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	12/1 ~ 12/7	47.4	▲ 2.4	▼ -15.8
	先物 [期近物/終値]	12/1 ~ 12/7	45.5	▲ 0.1	▼ -15.5
	(TOCOM/中部)	12/7	47.5	▲ 0.8	▼ -16.1
	小売 [週動向] (資工庁公表)	12/7	79.3	▲ 0.4	▼ -12.7



■ 関連情報

1 海外/原油

12月9日のNYMEXのWTI先物原油は、小幅に続落した。同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油は前週比1520万バレル増と市場予測(同1410万バレル減)に反し大幅な積み増しになり、ガソリン・中間留分在庫も予想を上回る積み増しになり、米国の感染再拡大が在庫にも反映したことが、相場の下押し要因となった。ただ、ワクチン開発の進展や追加経済対策の早期成立への期待感が下値を支えた。1月限の終値は前日比0.08ドル安の45.52ドル、2月限の終値は同0.08ドル安の45.72ドル。

EIAによると、12月7日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.6セント値上がりの1ガロン2.156ドル(59.8円/ℓ)、

ディーゼルは同2.4セント値上がりの2.526ドル(70.0円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは5週連続の値上がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年11月29日～12月5日に休止したトッパー能力は35.9万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は289.5万klと、前週に比べ5.5万kl増加。前年に対しては64.1万klの減少。トッパー稼働率は75.2%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては15.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリンが減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.5%減、ジェット/1.5%増、灯油/4.8%増、軽油/7.1%増、A重油/37.5%増、C重油/55.2%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.2万kl減)。軽油の輸出は2.6万kl(前週比0.2万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でA重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は91.1万kl(対前週17.1%増)と2週連続で増加した。ジェット10.2万kl(対前週62.9%増)、灯油36.8万kl(対前週40.1%増)、軽油64.8万kl(対前週17.5%増)、A重油21.2万kl(対前週0.5%減)、C重油13.0万kl(対前週20.1%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (11/29 ~ 12/5)	前週 (11/22 ~ 11/28)	前週比	
ガソリン	911	778	▲ 133	(17%)
ジェット燃料	102	62	▲ 40	(65%)
灯油	368	263	▲ 105	(40%)
軽油	648	551	▲ 97	(18%)
A重油	212	213	▼ -1	(-0%)
C重油	130	108	▲ 22	(20%)
合 計	2,371	1,975	▲ 396	(20%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

12月5日時点の在庫は、ジェット、軽油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは199.8万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては51.7万kl多い。

灯油は292.7万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては30.5万kl多い。

軽油は159.8万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては9.9万kl多い。

A重油は80.2万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては9.5万kl多い。

C重油は189.9万kl、前週差5.9万kl増。前年に対しては15.5万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (12/5)	前週 (11/28)	前週比	
ガソリン	1,998	1,993	▲ 5	(0%)
ジェット燃料	783	810	▼ -27	(-3%)
灯油	2,927	2,924	▲ 3	(0%)
軽油	1,598	1,622	▼ -24	(-1%)
A重油	802	779	▲ 23	(3%)
C重油	1,899	1,840	▲ 59	(3%)
合 計	10,007	9,968	▲ 39	(0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

12月1日～12月7日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。

次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比0.5円の引き上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

12月1日～7日の製品スポット市況は、11月24日～30日平均と比べ、全油種・全取引で値上がりした。

直近(12/1～12/7)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(11/24～11/30)比で、ガソリンは2.5円の値上がり、灯油は2.4円の値上がり、軽油は2.2円の値上がりだった。直近(12/1～12/7)において、ガソリンは98～99円台で大きく値上がり後ほぼ横ばい、灯油は46～47円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、軽油は47～48円台で大きく値上がり後わずかに値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(12/1～12/7)に、前週比で、ガソリンは2.0円の値上がり、灯油は1.6円の値上がり、軽油は1.8円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(12/1～12/7)に、ガソリンは100～101円台で大きく値上がり、灯油は45～46円台で大きく値下がり後値を戻し、軽油は48～49円台で値上がりして推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。先物価格は、同期間(12/1～12/7)に、ガソリン95～96円台でわずかに値下がり後値上がり、灯油45～46円台でわずかに値下がり後値上がり、軽油48～49円台でわずかに値下がり後大きく値上がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (12/1 ~ 12/7)	前週 (11/24 ~ 11/30)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	45.6	43.1	▲ 2.5
	灯油	47.4	45.0	▲ 2.4
	軽油	48.1	45.9	▲ 2.2

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (12/1 ~ 12/7)	前週 (11/24 ~ 11/30)	前週比
先物 価格	レギュラー	42.5	42.0	▲ 0.5
	灯油	45.5	45.4	▲ 0.1
	軽油	49.1	48.8	▲ 0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (12/1～12/7実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.5	▲ 0.5	▲ 1.5
灯油	▲ 2.4	▲ 0.1	▲ 1.3
軽油	▲ 2.2	▲ 0.3	▲ 1.2
A重油	▲ 2.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

12月7日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円高の134.2円、軽油も同0.7円高の114.9円、灯油は18ℓベースで同7円高の1,428円(1ℓベースでは79.3円同0.4円高)。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油も3週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは40都道府県、横ばいは4県、値下がり3府県となった。全国最安値は126.4円の徳島県(前週比0.2円安)、その次に安かったのは128.0円の埼玉県(同0.3円高)、最高値は143.2円の長崎県(同0.4円高)だった。最も値上がりしたのは、同3.0円高の香川県(130.6円)と宮城県(128.1円)、横ばいは大分県等4

県、最も値下がりしたのは、同0.5円安の大阪府(134.8円)と和歌山県(132.2円)だった。

今週(12月1日～7日)は、指標原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(12月10日～16日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の引き上げとなった。次回調査時(12月14日)のガソリンの小売価格は、小幅な値上がりが見込まれる。

(資工庁公表)		(単位: 円/ℓ)				
週動向]		今週 (12/7)	前週 (11/30)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	134.2	133.4	▲ 0.8	08/8/4	185.1
	灯油	79.3	78.9	▲ 0.4	08/8/11	132.1
	軽油	114.9	114.2	▲ 0.7	08/8/4	167.4

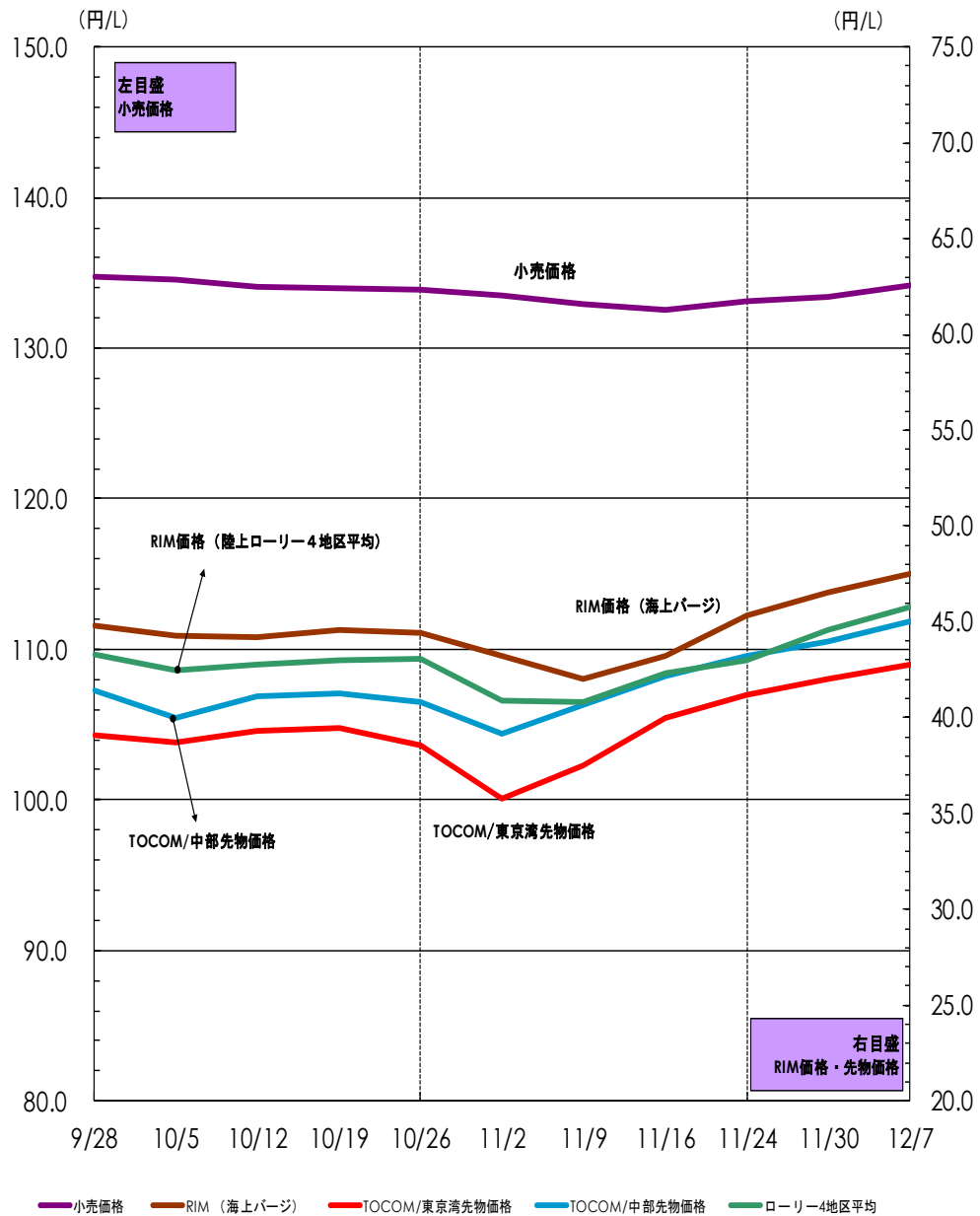
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/9/28 ~ 2020/12/7)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2020第24号)の公表は、12/18(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。